

中 学 校

令和5年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究内容	2
VI	研究構想図	3
VII	研究の実践事例	4
	< 1 事例1 歴史的分野 >	4
	< 2 事例2 地理的分野 >	8
	< 3 事例3 公民的分野 >	12
VIII	研究の成果	15
IX	今後の課題	16

## 生徒が主体的に課題追究、課題解決に 取り組むための指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

「第4期教育振興基本計画」（令和5年6月 閣議決定）では、今後の教育政策の基本的な方針として、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」、「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」等が定められた。そして、共生社会の実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の重要性や、社会の持続的な発展を生み出す人材養成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の必要性が改めて示された。

中学校学習指導要領社会に示されている目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること」である。指導計画の作成と内容の取扱いには、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること」と示され、その際は、分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、「社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること」が求められている。課題を追究したり解決したりする活動については、中学校学習指導要領解説社会編において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習など」としている。

これらを踏まえ、教育研究員所属校の生徒や指導の実態について話し合ったところ、社会科の指導上の課題として、「単元を貫く学習課題に基づく生徒の主体的な学びが十分でないこと」、「協働的に学習課題を追究したり解決したりすることを取り入れた授業が十分に行われていないこと」、「自己の学習活動を振り返り、新たな学びにつなげていく必要があること」などが挙げられた。そして、その解決のためには、生徒が「単元を貫く学習課題に対して自分の考えをもち、見通しをもって協働的に追究活動に取り組むこと」、「学習を振り返って自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすこと」などができる学習過程に改善することが重要だと考えた。

以上のことから、本研究では、主体的に学習に取り組む態度に着目し、生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むための指導の工夫に焦点を当てて研究することとした。具体的には、単元を課題把握、課題追究、課題解決の学習過程に分け、それぞれの学習過程における有効な手だてについて提案していく。課題把握の過程において生徒の興味・関心に基づいた学習課題を立てることで生徒の追究意欲を高めるとともに、課題追究の過程において生徒が自ら学習形態や学習方法を選択して取り組む調査活動を設定したり、課題解決の過程において自身の変容や成長を自覚できる振り返り活動を充実させたりすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成することができると考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

本研究では、生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むための指導の工夫として、次の3点に視点を当てて研究することとした。

- 1 単元を貫く学習課題の設定の工夫（課題把握）
- 2 生徒が自ら学習形態や学習方法を選択して取り組む調査活動の工夫（課題追究）
- 3 生徒が自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすための工夫（課題解決）

## III 研究仮説

生徒の興味・関心に基づいて単元を貫く学習課題を設定し、それぞれの学習過程における調査活動を充実させることで、生徒は主体的に課題追究、課題解決に取り組むことができるようになるだろう。

## IV 研究方法

- 以下の資料を参考に文献研究を行う。
  - ・ 中学校学習指導要領（文部科学省 平成29年3月）
  - ・ 中学校学習指導要領解説社会編（文部科学省 平成29年7月）
  - ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会  
(国立教育政策研究所 令和2年3月)
  - ・ 『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』  
(中央教育審議会 令和3年1月26日)
  - ・ 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（文部科学省初等中等教育局教育課程課 令和3年3月）
  - ・ 第4期教育振興基本計画（閣議決定 令和5年6月16日）
- 検証授業前後に実施する生徒へのアンケート調査や生徒の「単元シート」の記述内容を基に、本研究の取組によって得られた成果と課題をまとめる。

## V 研究内容

### 1 単元を貫く学習課題の設定の工夫（課題把握）

- 事前アンケート等を活用し、生徒の興味・関心に基づく単元を貫く学習課題を設定する。
- 生徒が単元を貫く学習課題に対する予想や疑問を基に、学習計画を作成する。

### 2 生徒が自ら学習形態や学習方法を選択して取り組む調査活動の工夫（課題追究）

- 生徒が自ら学習形態（個人、ペア又はグループ）や学習方法（教科書、資料集、図書資料及びデジタル機器等）を選択して、調査活動に取り組む場面を設定する。

### 3 生徒が自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすための工夫（課題解決）

- 生徒が単元の学習全体を振り返り、自身の変容や成長を自覚するための「単元シート」を作成し、毎時間の授業の振り返り及び単元の学習全体のまとめに活用する。

## VI 研究構想図

背景	
<b>【今後の教育政策に関する基本的な方針】</b> ○ グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 ○ 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進 （第4期教育振興基本計画より）	<b>【教科の目標】</b> 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。 （中学校学習指導要領社会より）
令和5年度教育研究員 共通研究テーマ	
全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現	

目指す生徒像
○ 単元を貫く学習課題に対して自分の考えをもち、見通しをもって学習に取り組む生徒 ○ 自ら学習形態や学習方法を選択し、課題の追究に向けた調査活動に協働して粘り強く取り組む生徒 ○ 学習を振り返って自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすことができる生徒

研究主題
生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むための指導の工夫
研究仮説
生徒の興味・関心に基づいて単元を貫く学習課題を設定し、それぞれの学習過程における調査活動を充実させることで、生徒は主体的に課題追究、課題解決に取り組むことができるようになるだろう。

研究内容
1 単元を貫く学習課題の設定の工夫（課題把握） ○ 事前アンケート等を活用した、生徒の興味・関心に基づいた単元を貫く学習課題の設定 ○ 単元を貫く学習課題に対する予想や疑問を基にした学習計画の作成 2 生徒が自ら学習形態や方法を選択して取り組む調査活動の工夫（課題追究） ○ 生徒が自ら学習形態（個人、ペア又はグループ）や学習方法（教科書、資料集、図書資料、デジタル機器等）を選択して、調査活動に取り組む場面の設定 3 生徒が自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすための工夫（課題解決） ○ 生徒が単元の学習全体を振り返り、自身の変容や成長を自覚するための「単元シート」の作成、毎時間の授業の振り返り及び単元の学習全体のまとめにおける活用

## VII 研究の実践事例

### 1 事例1 歴史的分野

#### (1) 単元名

B 近世までの日本とアジア (1) 古代までの日本 (イ) 日本列島における国家形成

#### (2) 単元の目標

ア 古代までの日本の大きな流れを、東アジアとの関わりを背景に、時代の特色を踏まえて理解する。

イ 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

ウ 古代までの日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。	① 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ② 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	① 古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

#### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領社会のうち、歴史的分野の内容B「近世までの日本とアジア」(1)「古代までの日本」に基づき設定している。

本事例では、日本の旧石器時代から日本列島における国家形成までの内容を扱っている。旧石器時代から縄文時代、稲作や金属器の伝来とともに発展した弥生時代に続き日本国内でクニが形成され、次第に大和政権が拡大を見せていく内容である。ここでは大陸との交流の中で日本はその影響を受けながら日本の社会が変化していくことに気付かせたい。そこで、「日本の社会は大陸との交流によってどのように変化したのだろうか。」という単元を貫く学習課題について、「単元シート」を用いて振り返る場面を設定することで見通しをもち、自らの学びを振り返りながら主体的に学習に取り組めるようにする。

生徒の学ぶ意欲や課題を見だし追究する力を養うため、単元終盤では学ぶ過程で生じた新たな問いや疑問から各自で問いを立て、追究する活動を取り入れる。それぞれの興味・関心に基づいて追究する活動を行うことで個別最適な学びの実現を図る。

(5) 研究主題に迫るための手だて

<p>課題把握</p>	<p><b>【事前アンケートを基にした単元を貫く学習課題の設定】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;事前アンケートの質問項目&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 縄文時代について、知っていることを書いてください。</li> <li>2 弥生時代について、知っていることを書いてください。</li> <li>3 古墳時代について、知っていることを書いてください。</li> <li>4 日本の古代の歴史で、大陸(海外)の影響で変化したことについて、知っていることを書いてください。</li> </ol> </div> <p>事前アンケートの結果、質問項目1～3の各時代について知っていることは、小学校での学習内容を基に回答できる生徒が比較的多かったが、質問項目4の回答率が低かった。したがって、単元を貫く学習課題を「日本の社会は大陸との交流によってどのように変化したのだろうか。」と設定した。</p>																																								
<p>課題追究</p>	<p><b>【単元を貫く学習課題に対する調査活動に取り組む場面の設定】</b></p> <p>課題把握及び課題追究の前半に、基本的な知識の定着を図り、「単元シート」に学習内容や学習を振り返って気付いたことなどをまとめていく場面を設定した。課題追究の最後に、生徒が自ら学習方法を選択し、単元を貫く学習課題に対する調査活動を設定した。「単元シート」に単元を貫く学習課題に対する生徒自身の答えを記入することで、課題追究を課題解決の学習過程につなげていく。</p>																																								
<p>課題解決</p>	<p><b>【「単元シート」を活用した新たな調査活動の設定】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><b>単元シート</b>                      ～ 単 元 名 ～</p> <p>年( ) 組( ) 番 名前( )</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【単元を貫く学習課題】</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【学習前の考え・予想】</b></p> </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>本時の 学習課題</th> <th>学習 方法</th> <th>単元を貫く学習課題の 解決に向けて、 ①分かったこと ②自分の学習について 振り返ったこと</th> <th>疑問点や 興味を もったこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑥</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑦</td><td></td><td>個人 ペア グループ</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 48%;"> <p><b>単元シート</b>                      ～ 単 元 名 ～</p> <p><b>【単元を貫く学習課題に対する答え】</b></p> <p>単元の学習を終えて、単元を貫く学習課題に答えると…</p> <hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A 学習課題に対して複数の資料を基に根拠を示しながら、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>B 学習課題に対して多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p style="text-align: right;">(思考・判断・表現)</p> </div> <p>学習の進め方で工夫したことや新たに調べたいことは…</p> <hr/><hr/><hr/><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A 単元の学習を振り返り、自己の考え方の変化に気付く、新たな課題の追究につなげることができている。</p> <p>B 単元の学習を振り返り、自己の考え方の変化に気付くことができている。</p> <p style="text-align: right;">(主体的に学習に取り組む態度)</p> </div> </div> </div> <p>課題追究の過程で取り組んだ調査活動について、生徒が「単元シート」を活用して振り返り、新たに生じた問いや疑問についてさらに追究する場面を設定した。生徒が見いだした問いや疑問をデジタル機器を活用してグルーピングし、学級全体で共有することで、同じ視点の問いや疑問をもった生徒同士が協働して調査活動に取り組めるように工夫した。</p>		本時の 学習課題	学習 方法	単元を貫く学習課題の 解決に向けて、 ①分かったこと ②自分の学習について 振り返ったこと	疑問点や 興味を もったこと	①		個人 ペア グループ			②		個人 ペア グループ			③		個人 ペア グループ			④		個人 ペア グループ			⑤		個人 ペア グループ			⑥		個人 ペア グループ			⑦		個人 ペア グループ		
	本時の 学習課題	学習 方法	単元を貫く学習課題の 解決に向けて、 ①分かったこと ②自分の学習について 振り返ったこと	疑問点や 興味を もったこと																																					
①		個人 ペア グループ																																							
②		個人 ペア グループ																																							
③		個人 ペア グループ																																							
④		個人 ペア グループ																																							
⑤		個人 ペア グループ																																							
⑥		個人 ペア グループ																																							
⑦		個人 ペア グループ																																							

(6) 単元の指導計画と評価計画（7時間扱い）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

		目標	学習活動・学習内容	評価の観点		
				知	思	態
単元を貫く学習課題 「日本の社会は大陸との交流によってどのように変化したのだろうか。」						
課題把握	第1時	古代の日本の歴史に興味・関心をもち、単元を貫く学習課題を設定する。	事前アンケートを基に単元を貫く学習課題を設定し、予想を立てる。			●
課題追究	第2時	旧石器時代と縄文時代の人々の暮らしの変化とその要因を考察し、表現する。	旧石器時代と縄文時代の暮らしの様子を表した絵から変化とその要因を考え、発表する。		●	
	第3時	弥生時代の人々の暮らしの変化の要因を考察し、表現する。	弥生時代の暮らしの変化が東アジアとの繋がりによって起きたことを資料から読み取り、その要因を考察し、表現する。		●	
	第4時	大和政権の拡大と東アジアの交流の影響について考察する。	古墳の広がりと特色から東アジアとの繋がりや影響と要因を考察し、表現する。		○	
	第5時	グループでの議論を踏まえて、大陸との交流による日本の社会への影響について理解する。	古代の日本社会の変化と東アジアとの交流の影響について、グループで議論する。	○		
課題解決	第6時 (本時)	古代までの日本について、これまでの学習を踏まえて新たな学習課題を設定し、古代の日本の歴史を主体的に追究する。	古代の日本の歴史の転換に影響を与えたものについて意見を出し合う。 生徒が各自で新たな学習課題を設定し、学習形態を選択して調査活動に取り組む。			○
	第7時	追究した内容を発表し、古代の日本の歴史について理解を深める。	単元を貫く学習課題について各自が追究した内容を発表する。	●	●	○

(7) 本時（全7時間中の第6時）

ア 本時の目標

古代までの日本について、これまでの学習を踏まえて新たな学習課題を設定し、古代の日本の歴史を主体的に追究する。



イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 前時までの学習の復習 ○ 本時の学習課題と流れの確認		
日本の古代の歴史について新たな問いや疑問を追究しよう。			
展開 40分	○ 日本の古代の歴史に変化をもたらしたものについての考察 ・ 日本の古代の歴史で、東アジアとの交流で変化をもたらしたものを挙げる。 ・ 特に大きな変化をもたらしたと思うものを一つ選び、その理由を各自で考えた後、グループで考える。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p><b>調査活動</b></p> <p>単元を通して新たに見いだした問いや疑問を共有し、時代ごとに整理された問いを基に生徒が自ら学習形態（個人、ペア又はグループ）を選択し、問いや疑問について調査を行う。</p> </div>			
	・ デジタル機器を活用し、調査した内容を発表スライドにまとめる。	・ 問いの例を提示し、問いを立てる支援を行う。	ウー① (発表スライド)
まとめ 5分	○ 本時の振り返りと次回の予告 ・ 「単元シート」に振り返りを記入し、次回の見通しをもつ。	・ 作成中の課題を提出させ、進捗状況の確認とともにアドバイスをを行う。	

(8) 成果と課題

ア 成果

- 生徒が単元全体の学びを振り返ることで、「単元シート」の記述に「朝鮮半島との交流により新しい技術が伝わり日本の文化も変化した。」や「大陸から渡来人が来て、漢字や仏教などが日本に伝えられた。」など、単元を貫く学習課題に関する内容が多く見られた。また、「大和政権は朝鮮半島にどのような贈り物をしたのだろうか。」や「なぜ大陸との交流をきっかけに勢力を高めようとしたのだろうか。」など単元を貫く学習課題に対して疑問や興味をもったことなどの記述も多く見られた。このことから、「単元シート」を活用することで、生徒が新たな問いを見だし、主体的に課題解決に取り組むことができたと考えられる。
- 生徒の調査活動に対する感想として、「小学校では触れられていなかった内容について気になることが多く、調べることができて良かった。」や「自分で調べてみると、どんどん調べてみたくなり、歴史に興味が出た。」など調査活動に対して前向きな内容が多く見られた。また、生徒の「単元シート」からは「自分で調べて分からなかったところは、友達に聞くことで理解できた。」や「班で調べたことを共有することで、新しい視点に気付くことができて、新たな学びを得ることができた。」などの記述が見られた。単元を通して見いだした問いや疑問を基にした調査活動を設定することで、生徒が主体的に課題解決に取り組むことができたと考えられる。

## イ 課題

- 生徒は授業者が整理した時代区分ごとに調査活動に取り組んだ。生徒が新たに見いだした問いや疑問は多岐にわたる一方、次の単元の学習につながる内容について発表をした班は少なかった。単元のつながりを意識した主体的な学びを引き出すために、生徒が見いだした問いや疑問を整理する際に、次の単元の学習につながる視点を提示することが必要である。

## 2 事例2 地理的分野

### (1) 単元名

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域「中部地方」

### (2) 単元の目標

ア 中部地方を大観し、「産業」を中核として、各地域で独自の発展を遂げた様々な産業が地域に及ぼした影響などに関連付け、中部地方の地域的特色や地域の課題を理解する。

イ 産業を中核とした考察の仕方では取り上げた自然環境や人々の生活、地域の特徴を、そこで生ずる課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

ウ 中部地方の地域的特色に興味・関心をもち、産業を中核とした考察の仕方を通して、諸事象や課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

### (3) 単元の評価規準 中核的な項目「産業を中核とした考察の仕方」

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 中部地方について地図や表・グラフなどの資料から読み取り、自然・産業・文化などの面から深く理解している。	① 中部地方について自然環境や人口、歴史的な背景や産業などを捉え、現在の産業との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。	① 中部地方についてよりよい社会の実現を視野に中部地方の地域的特色及び諸課題を主体的に追究しようとしている。

### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領社会のうち、地理分野の内容C「日本の様々な地域」の(3)「日本の諸地域」に基づき設定している。本単元は中部地方を「産業を中核とした考察の仕方」をテーマにして扱う。本単元の前に「九州地方」、「中国・四国地方」、「近畿地方」を学習しており、日本の諸地域の学習としては四番目の単元である。各地方の特色を大観させるための視点として、「自然環境」、「人々の暮らしや文化」という視点を使って考察してきたが、「産業を中核とした考察の仕方」を基にして学習するのは初めてである。しかし、それまでの地方の学習で活用してきた見方・考え方の中に、工業と人口分布の関係や、地形や気候と農業の関係など、「産業」と関連している気付きが多くあった。そのため、中部地方の学習を進めることで、「産業」の視点で生徒が自らの視野の広がりや考えの深まりに、気付くことができると考える。

(5) 研究主題に迫るための手だて

<p>課題 把握</p>	<p><b>【地図や資料からの読み取りを基にした単元を貫く学習課題の設定】</b></p> <p>図：生徒がグループで作成したY字チャート</p> <p>生徒が中部地方の地図を見て気付いたことや、疑問に感じたことをY字チャートにまとめた。その結果、図のように「長野県では特にりんごが多く栽培されている。」、「愛知県で自動車や自動車部品が多く生産されている。」という気付きや「車を輸送するために港や交通が発達したのではないか。」などの疑問が挙げられた。このような生徒の気付きや疑問に基づき、中部地方の特色を大観するための視点を「産業を中核とした考察の仕方」にすることとした。そして、単元を貫く学習課題を「中部地方はどのような特徴のある地方か～産業の視点から考える～」とした。</p>
<p>課題 追究</p>	<p><b>【生徒が自ら学習形態や学習方法を選択し、協働して調査活動に取り組む場面の設定】</b></p> <p>中部地方における産業ごとの特徴について、生徒が学習形態（個人、ペア又はグループ）を自由に選択し、調査活動に取り組む場面を設定した。また、学習方法についても、教科書、地図帳及びデジタル機器等を選択して活用できるようにした。</p>
<p>課題 解決</p>	<p><b>【生徒が主体的に学習に取り組むための「単元シート」の活用】</b></p> <p>各地方の学習を行う際に、統一形式の「単元シート」を地方ごとに作成していくことで、生徒が自らの変容や成長に気付いたり、学習に行き詰まった際に自らの学びを振り返り、学習を調整することができるようにした。また、「単元シート」は、生徒が常に単元を貫く学習課題や地方の特色を大観するための視点を意識し、見通しをもって学習に取り組むことができるように、単元を貫く学習課題とそれに対する単元の学習開始時の考えや予想が記入できる構成にした。</p>

(6) 単元の指導計画と評価計画（5時間扱い）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

		目標	学習活動・学習内容	評価の観点		
				知	思	態
単元を貫く学習課題 「中部地方はどのような特徴のある地方か。～産業の視点から考える～」						
課題 把握	第1時 (本時)	地図や資料から地方の特色を読み取り、理解する。 中部地方の学習内容に興味・関心をもち、単元の学習の見通しをもつ。	資料から中部地方の地域的特徴を読み取る。 単元を貫く学習課題を設定し、解答を予想する。	●		●
課題 追究	第2時	中部地方の自然環境の特徴が産業にどのような影響を与えているか、多面的・多角的に考察し、表現する。	中部地方の自然環境の特徴を理解する。 三つの地域でどのような産業が発達するか、自然環境と関連付けて考察し、発表する。		●	
	第3時	中部地方の二次産業について、三つの地域で生産されているものの比較を通して考察する。	中京工業地帯の自動車生産について理解する。 三つの地域でそれぞれ生産されているものに注目し、特徴を考察する。			○
	第4時	中部地方の一次産業の特徴が地域によって異なることの背景を多面的・多角的に考察し、その特徴を理解する。	中部地方の一次産業の地域差を、様々な資料から読み取り、自然環境や交通網、歴史から考察し、内容をまとめる。	○		
課題 解決	第5時	中部地方の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究する。	「産業」を中心に考察してきた中部地方の特徴を振り返り、自分の学習の取組をまとめる。		○	○

(7) 本時（全5時間中の第1時）

ア 本時の目標

- 地図や資料から中部地方の特色を読み取り、理解する。
- 中部地方の学習内容に興味・関心をもち、単元の学習の見通しをもつ。

イ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○ 本時の学習課題と流れの確認		
	資料から読み取れる中部地方の特徴から、単元を貫く学習課題を考えよう。		
展開 30分	○ 地図や資料からの読み取り		アー① (ワークシート、 ノート)
	<b>調査活動</b> 中部地方の特色を地図から読み取り、気付いたことや疑問に感じたことをワークシートに記入する。その後、グループで気付きや疑問点を「自然」「産業」「暮らし、文化」の観点で分類し、デジタル機器を活用してY字チャートにまとめる。		
まとめ 10分	○ 単元を貫く学習課題に対する予想の検討		ウー① (単元シート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域的特色を踏まえて、単元を貫く学習課題に対する予想を立てる。</li> <li>・ 「単元シート」を活用して本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が知っていることを全体共有しながら、生徒のイメージを膨らませる。</li> <li>・ 他のグループの意見を参考に、地域の特徴を多面的・多角的に捉えさせる。</li> </ul>	

(8) 成果と課題

ア 成果

- 検証授業後に、複数の生徒から「自分で学習方法を選んだり、途中で変えたりすることができたので、諦めずに最後まで学習課題に取り組むことができた。」という声が聞かれた。また、課題追究の場面における調査活動では、日本の自然に興味のある生徒が地図帳を中心に追究したり、自動車に興味をもっている生徒がデジタル機器を活用して中部地方の産業の発達を交通網の発達と結び付けて調べたりするなど、生徒が自らの興味・関心に基づいて活動に取り組む姿が見られた。生徒が自らの興味・関心に基づいて新たな問いを見いだしたり、学習方法を自由に選択することで、多くの生徒が主体的に学習に取り組むことができたと考えられる。
- 単元を貫く学習課題を意識しながら学習に取り組むことができるようになったと振り返った生徒からは、「単元の学習課題をいつでも確認することができるため、ゴールを意識した学習ができた。」「『単元シート』の活用により学習課題に対する理解度が高まった。」という声が聞かれた。「単元シート」の活用は、生徒が興味・関心に基づく単元を貫く学習課題に対して主体的に課題追究、課題解決に取り組むことに効果的であったと考えられる。

## イ 課題

- 単元を貫く学習課題を設定する際に、デジタル機器を活用したY字チャートの活用が効果的であった。生徒が既習事項を活用し、見通しをもってより主体的に単元を貫く学習課題を設定することができるような思考ツール等の提案が今後の課題である。また、生徒が設定した単元を貫く学習課題を解決するために、授業者が指導計画を柔軟に変更して生徒の活動時間を十分に確保していくことも必要となる。

### 3 事例3 公民的分野

#### (1) 単元名

C 私たちと政治 (2) 民主政治と政治参加「国の政治の仕組み」

#### (2) 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

ア 国会・内閣・裁判所の役割について、それぞれの機関の仕組みと仕事の内容を理解するとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、様々な資料から調べ、まとめる。

イ 国会・内閣・裁判所の果たすべき役割と、それぞれの機関が抱える課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

ウ 国会・内閣・裁判所の仕組みについて、私たちの生活との関わりに着目し、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 国会・内閣・裁判所の役割について、それぞれの機関の仕組みと仕事の内容を理解しているとともに、それぞれの機関の相互の関連性について、様々な資料から調べ、まとめている。	① 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、国会・内閣・裁判所の果たすべき役割と、それぞれの機関が抱える課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	① 国会・内閣・裁判所の仕組みについて私たちの生活との関わりに着目し、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

#### (4) 単元について

本単元は中学校学習指導要領社会のうち、公民的分野の内容C「私たちと政治」(2)「民主政治と政治参加」に基づき設定している。政治の働きを中心となる国会・内閣・裁判所について、生徒がそれぞれの機関の特徴や仕組みを理解できるように指導していく。

単元の前半は、民主政治の仕組みについて政党や選挙など、国民との関わりに触れながら学習を進めていく。単元の後半は、国会・内閣・裁判所について生徒が主体となって調査活動を行い、それぞれの機関の仕事や役割、国民との関わり、各機関の関連性や課題についての発表を通して基本的な知識・理解を深めていく。

(5) 研究主題に迫るための手だて

<p>課題把握</p>	<p><b>【事前アンケートに基づいた単元を貫く学習課題の設定】</b></p> <p>＜国会・内閣・裁判所についてのアンケート調査結果＞( )内の数字は、同じ回答の人数</p> <p>1 国会と国民の関わりで知っていること          ・ 国民の選挙(6) ・ <u>分からない(17)</u></p> <p>2 内閣と国民の関わりで知っていること          ・ 増税(1) ・ 世論(1) ・ <u>分からない(21)</u></p> <p>3 裁判所と国民の関わりで知っていること          ・ 裁判員制度(3) ・ 裁判を受ける権利がある(1) ・ 裁判を傍聴できる(1)          ・ <u>分からない(18)</u></p> <p>4 国会・内閣・裁判所のそれぞれの機関の関わりについて知っていること          ・ 三権分立(5) ・ <u>分からない(18)</u></p> <p style="text-align: right;">有効回答 23 人</p> <p>それぞれの機関と国民との関わりについて「分からない」と回答した生徒がクラス全体の半数以上を占めた。生徒の確かな理解を基にした主体的な学びに課題があると考え、単元を貫く学習課題を「国会・内閣・裁判所は、国民とどのように関わっているのか。」と設定した。</p>
<p>課題追究</p>	<p><b>【生徒が自ら学習形態や学習方法を選択し、協働して調査活動に取り組む場面の設定】</b></p> <p>調べたい機関（国会・内閣・裁判所）についての各自の希望を踏まえて、生徒が学習形態（個人、ペア又はグループ）を自由に選択し、調査活動に取り組む場面を設定した。また、学習方法についても、教科書、資料集及びデジタル機器の他に、図書資料を活用できるように図書館司書と連携をして、近隣の図書館から図書資料を集めて教室内に設置した。</p>
<p>課題解決</p>	<p><b>【「単元シート」を活用した単元の学習全体のまとめ】</b></p> <p>生徒がいつでも単元の学習を振り返り、自身の変容や成長を自覚することができるように毎時間「単元シート」を活用した振り返りの時間を設けた。また、単元の最後には単元の学習全体を振り返り、単元を貫く学習課題について生徒がレポートを作成する場面を設定した。</p>

(6) 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

		目標	学習活動・学習内容	評価の観点		
				知	思	態
単元を貫く学習課題 「国会・内閣・裁判所は、国民とどのように関わっているのか。」						
課題把握	第1時	国民の願いを実現する社会の仕組みを理解する。	単元を貫く学習課題に対する予想を立て、共有する。 議会制民主主義と議院内閣制の仕組みを理解する。	●		●
	第2時	政党と選挙の仕組みを理解する。	与党と野党の役割及び選挙の仕組みと課題を理解する。	●		
	第3時	裁判の仕組みと裁判員制度について理解する。	裁判の種類と裁判員制度の仕組みを理解する。	●		

課題 追究	第4時 第5時	国会・内閣・裁判所の仕事、役割について調べ、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	仕事内容や役割、国民との関わり、他の機関との関わり等について調べ、まとめる。		●	●
	第6時 (本時)	国会・内閣・裁判所の仕組みについて私たちの生活との関わりに着目し、それぞれの機関の相互の関連性について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に追究する。	仕事内容や役割、国民との関わり、他の機関との関わり、各機関が抱える課題についてまとめる。			●
課題 解決	第7時	発表を通して、それぞれの機関の役割を理解する。	発表から国会・内閣・裁判所の役割等を理解する。	○		
	第8時	単元の学習を振り返り、単元を貫く学習課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	単元を振り返り、単元を貫く学習課題についてレポートを作成する。		○	○

(7) 本時（全8時間中の第6時）

ア 本時の目標

国会・内閣・裁判所の仕組みについて私たちの生活との関わりに着目し、それぞれの機関の相互の関連性について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に追究する。

イ 本時の展開

	○学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 本時のねらい、流れの説明  国会・内閣・裁判所は、それぞれの機関とどのような関わりがあるのか調べてまとめよう。		
展開 35分	<p style="text-align: center;"><b>調査活動</b></p> <p>各自が調べたい機関（国会・内閣・裁判所）の仕組みや国民との関わり、それぞれの機関の相互の関連性、各機関が抱える課題とその解決策などについて生徒が学習形態や学習方法を選択して調べる。</p> <p>○ グループごとの発表準備 ・ 発表内容の分担を行い、次時の発表に向けた準備や練習を行う。 &lt;発表内容&gt; ① 仕事内容、役割 ② 国民との関わり ③ 他の機関との関わり ④ 各機関が抱える課題</p>	・ 生徒が自由に活用できるよう図書資料を準備する。	ウー① (発表資料、発表内容)
まとめ 10分	○ 振り返り ・ 資料作成を通して、新たに見いだしたことについて記述する。	・ 「単元シート」を記入させ、次時の発表に向けて流れを確認する。	



## (8) 成果と課題

### ア 成果

- 生徒が自ら学習形態（個人、ペア又はグループ）や学習方法（教科書、資料集、図書資料、デジタル機器等）を選択することで、生徒は主体的に調査活動に取り組むことができた。また、調べた内容をまとめ、発表する段階でデジタル機器を用いたことにより、即時共有機能を活用して別々の機関について調べているグループ同士が活発に情報共有を行い、学習内容を深める姿が見られた。課題追究の場面で、生徒が自ら学習形態や学習方法を選択して取り組む調査活動を設定したことが、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながったと考えられる。
- 検証授業後の生徒の「単元シート」の記述からは、「各機関の働きを知り、三権分立がなぜ必要なのか興味をもった。」や「他のグループの発表を聞き、海外の機関についても調べてみたいと思った。」など、調査活動を通して、新たな気付きや疑問を見いだしたことが分かる内容が多く見られた。このことから、単元を貫く学習課題の解決に向けた調査活動の設定により、生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むことができたと考えられる。

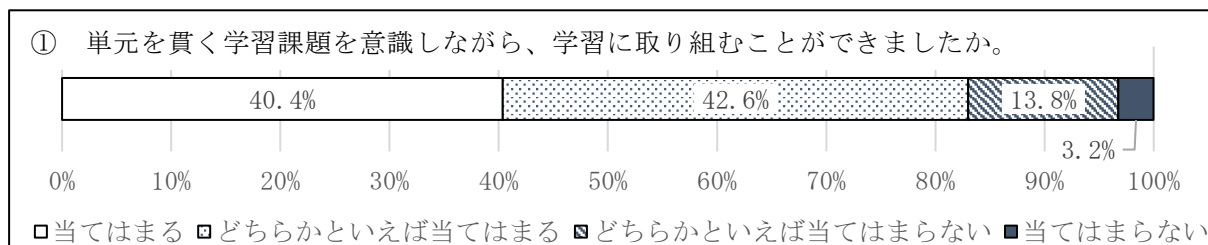
### イ 課題

- 生徒が自ら調査活動を行った学習内容についての知識の深まりは顕著であったが、包括的な内容に対する知識の定着については、一部課題が見られた。知識の定着を図るために、調査活動を部分的な内容だけでなく、包括的な内容についても取り扱うなど、調査活動で扱う内容の範囲は検討する必要がある。
- 調査活動を行う際に、インターネット上の情報の信ぴょう性を確認せずに活用している生徒も見られた。情報モラルに関する指導を充実させるとともに、教科書や資料集、図書資料等の有用性について授業者が生徒に伝え、活用する時間を確保することが必要であると感じた。

## VIII 研究の成果

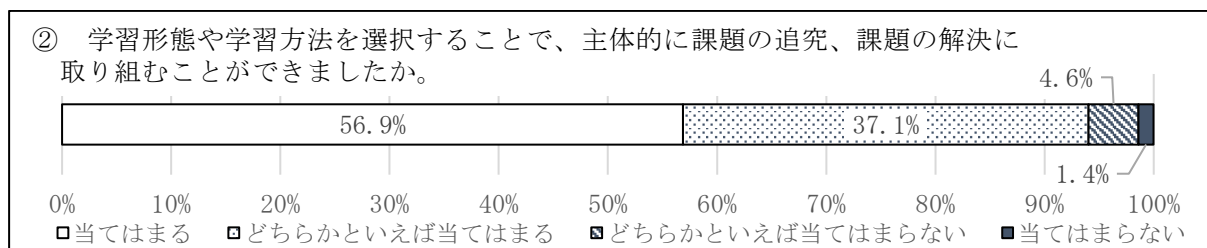
研究主題に迫るための手だてをそれぞれの学習過程において設定し、検証授業を含む単元の学習の中で実践した。検証授業を含む単元の学習の後にアンケート調査を行い、その結果及び生徒が作成した「単元シート」の記述を分析した。

### (1) 単元を貫く学習課題の設定の工夫（課題把握）



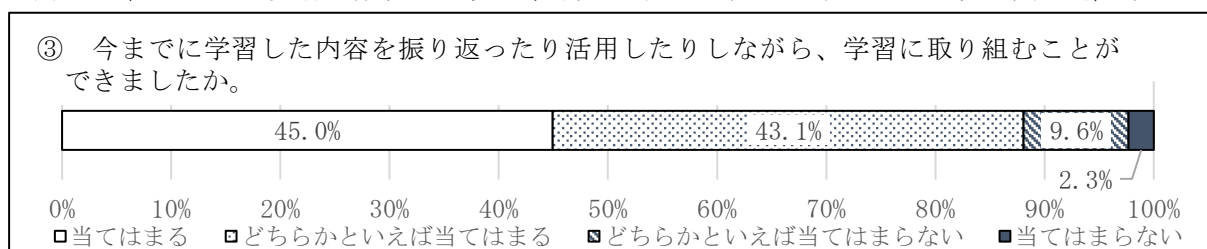
- 「単元を貫く学習課題を意識しながら、学習に取り組むことができましたか。」の質問項目に 83.0%の生徒が肯定的に回答した。このことから、生徒の興味・関心に基づく単元を貫く学習課題を設定し、学習計画を作成する活動を取り入れることは、生徒が見通しをもち主体的に学習に取り組むことに対して効果的であったと考えられる。

(2) 生徒が自ら学習形態や学習方法を選択して取り組む調査活動の工夫（課題追究）



○ 「学習形態や学習方法を選択することで、主体的に課題の追究、課題の解決に取り組むことができましたか。」の質問項目に94.0%の生徒が肯定的に回答した。生徒が自ら学習形態や学習方法を選択し、協働して調査活動に取り組む場面を設定することにより、生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むことができたと考えられる。

(3) 生徒が自身の変容や成長を自覚し、新たな問いを見いだすための工夫（課題解決）



○ 「今までに学習した内容を振り返ったり活用したりしながら、学習に取り組むことができましたか。」の質問項目に88.1%の生徒が肯定的に回答した。また、生徒の「単元シート」には、以下のように自身の変容や成長を自覚する記述が多く見られた。

- ・ まずは、自分で調べて、その後に友達に聞くことでより深く理解することができた。
- ・ これまでの学習内容を活用し、様々な視点で地図の読み取りを行うことができた。
- ・ 今後は気になることを資料集などで調べて、もっと視野を広げたいと思った。
- ・ 単元シートの最後にレポートを書くことで、学習した知識を整理できた。
- ・ 授業の内容を振り返ることで、新しい疑問や調べたいことが出てくることに気が付いた。

これらの結果から、「単元シート」の授業の振り返りや単元のまとめへの活用が、生徒が自身の変容や成長を自覚することや新たな問いを見いだすことにつながったと考えられる。

○ 以上(1)～(3)の結果より、生徒の興味・関心に基づいて単元を貫く学習課題を設定し、それぞれの学習過程における調査活動を充実させることで、生徒が主体的に課題追究、課題解決に取り組むことができるようになったと言える。

Ⅸ 今後の課題

- 生徒が主体となって単元を貫く学習課題を設定する際、学習課題が単元の目標や学習内容に即したものとなるように、事前アンケートの質問項目の検討及び生徒が資料から読み取った情報や調べた内容を焦点化する方法の検討が今後の課題である。
- 生徒が自ら調査活動を行った学習内容についての知識の深まりは見られたが、包括的な内容の知識の定着については、一部課題が見られた。調査活動で扱う内容の範囲については検討する必要がある。
- 生徒が学習を通して見いだした新たな問いや疑問は多岐にわたる。主体的・対話的で深い学びの実現のために、生徒が見いだした問いや疑問を整理する際、授業者が社会的な見方・考え方や次の単元の学習につながる視点を明らかにするような工夫が必要である。

# 令和5年度 教育研究員名簿

## 中学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
杉並区立高円寺学園	主任教諭	三輪 巧介
足立区立湊江中学校	主幹教諭	◎岩井 宏澄
三鷹市立第四中学校	主幹教諭	大野 雄輝
清瀬市立清瀬第四中学校	主任教諭	木内 悠斗
東京都立桜修館中等教育学校	主任教諭	村木 龍太郎

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
指導主事 小貫 達也

令和5年度  
教育研究員研究報告書  
中学校・社会

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849